

病害虫発生予察 8 月月報
(生育概況及び病害虫の調査結果)

令和 7 年 8 月の気象表 (長野地方気象台発表)

官署等		平均気温 ℃			降水量 mm			日照時間 h		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
長野	本年	26.9	26.5	27.3	96.0	12.0	24.0	73.3	74.6	94.6
	平年	26.2	25.6	24.4	27.4	40.1	44.4	73.7	65.1	63.0
松本	本年	27.1	26.7	27.3	36.5	18.0	34.0	78.2	73.7	102.6
	平年	25.8	25.3	24.2	30.0	27.2	44.4	72.6	65.7	64.6
諏訪	本年	25.6	25.7	26.5	38.0	40.5	0.0	74.2	77.4	103.8
	平年	24.8	24.3	23.3	41.1	53.1	46.6	71.8	63.5	64.1
軽井沢	本年	22.9	22.1	23.0	27.0	49.0	7.0	76.0	61.3	90.3
	平年	21.4	21.0	20.1	36.5	47.3	57.8	58.0	51.1	53.6
飯田	本年	26.8	26.7	27.6	49.5	64.5	2.5	70.2	74.1	105.2
	平年	26.0	25.6	24.6	38.2	49.8	61.3	69.5	62.8	62.8

太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多かったものの、前線や湿った空気の影響により、曇りや雨、雷雨となった地域がありました。

平均気温は、月を通して暖かい空気に覆われやすかったため、平年と比べ高く推移しました。

1 水 稲

(1) 水稻の生育状況

水稻の生育概況につきましては、農業試験場ホームページ内の「生育調査」欄に掲載されている「水稻の生育状況（令和 7 年度）」をご参照ください。
農業試験場ホームページ
(<https://www.pref.nagano.lg.jp/nogyoshiken/teirei/index.html>)

(2) 病害虫の発生状況

①いもち病

8 月上旬の巡回調査での発病地点率は、東信地域及び北信地域では平年と比べ高く、南信地域ではほぼ平年並、中信地域では平年と比べ低かった。

平均発病株率は、北信地域では平年と比べやや高く、東信地域及び南信地域ではほぼ平年並、中信地域では平年と比べ低かった。

なお、一部ほ場では、上位葉への病斑の進展がみられた（第 1 表）。

第 1 表 8 月上旬の葉いもち発生状況

地域	発病地点率(%)		平均発病株率(%)		平均上位葉発病株率(%)	
	平年	本年	平年	本年	平年	本年
東信	37.7	46.7	9.7	9.9	0.4	0.5
南信	21.7	20.0	3.7	4.3	0.6	1.1
中信	8.3	5.6	1.5	0.4	0.5	0.0
北信	34.9	50.0	6.4	8.9	1.0	0.9
県全体	24.4	29.0	5.0	5.6	0.6	0.6

(注) 発病地点率は巡回調査地点の中で発生が確認された地点の割合を地域ごとに示したもの

平均発病株率は巡回調査地点の発病株率を地域ごとに平均したもの

平均上位葉発病株率は巡回調査地点の上位葉（止葉・次葉）の発病株率を地域ごとと平均したもの
平年は 2015～2024 年の平均値

調査地点数は第 3 表と同じ

②紋枯病

8 月上旬の巡回調査での発病地点率は、東信地域では平年と比べ高く、南信地域、中信地域、北信地域では平年と比べ低かった。平均発病株率は、東信地域では平年と比べ高く、北信地域ではほぼ平年並、南信地域、中信地域では平年と比べ低かった。

8 月下旬の巡回調査での発病地点率は、東信地域で平年並み、北信地域でやや高かった。一方、南信地域及び中信地域では低かった。平均発病株率は、全ての地域で平年と比べ低かった（第 2 表）。

第2表 紋枯病の発生状況

地域	発病地点率(%)				平均発病株率(%)			
	8月上旬		8月下旬		8月上旬		8月下旬	
	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年
東信	32.4	46.7	60.6	66.7	3.7	5.3	16.0	12.8
南信	19.0	16.7	42.4	20.0	2.0	0.5	9.3	1.7
中信	26.8	5.0	57.0	11.0	3.1	2.0	14.2	2.9
北信	14.6	11.8	40.1	57.1	1.1	1.3	7.4	5.3
県全体	23.0	18.6	49.7	37.1	2.5	2.3	11.6	5.6

(注) 発病地点率は巡回調査地点の中で発生が確認された地点の割合を地域ごとに示したもの

平均発病株率は巡回調査地点の発病株率を地域ごとに平均したもの

平年は2015～2024年の平均値

なお、調査地点数は第3表と同じ

③白葉枯病

8月下旬の巡回調査では、発生はみられなかった。

④縞葉枯病

8月下旬の巡回調査での発病地点率は、東信地域及び北信地域では平年と比べ高く、南信地域及び中信地域は発生がみられなかった。発病株率は、東信地域では平年と比べ低かったが、北信地域では、平年と比べ高かった(第3表)。

第3表 8月下旬の縞葉枯病の発生状況

地域	調査 地点数	発病地点率(%)		平均発病株率(%)	
		平年	本年	平年	本年
東信	15	15.3	26.7	4.7	2.4
南信	15	0	0	0	0
中信	18	0.5	0	0	0
北信	14	9.4	14.3	0.9	2.0
県全体	62	5.7	15.7	1.0	1.9

(注) 発病地点率は巡回調査地点の中で発生が確認された地点の割合を地域ごとに示したもの

平均発病株率は巡回調査地点の発病株率を地域ごとに平均したもの

平年は2015～2024年の平均値

⑤ヒメトビウンカ

8月上旬のすくい取り調査(本田ネット20回振)での捕獲頭数(成虫)は、中信地域では平年と比べ多く、東信地域、中信地域、北信地域ではほぼ平年並であった(第6表)。

8月下旬のすくい取り調査(本田ネット20回振)での捕獲頭数(成虫)は、東信地域及び北信地域では平年と比べやや多く、南信地域及び中信地域では平年と比べ多かった(第4表)。

第4表 ヒメトビウンカ成虫(短翅も含む)の平均捕獲頭数(頭)

地域	調査 地点数	8月上旬		8月下旬	
		平年	本年	平年	本年
東信	15	11.2	10.6	43.3	54.5
南信	15	5.4	5.1	7.8	17.4
中信	18	10.7	16.3	19.8	51.2
北信	14	14.4	14.1	47.4	53.0
県全体	62	10.2	11.7	27.9	44.2

(注) 平均捕獲数は巡回調査地点の捕獲数を地域ごとに平均したもの

平年は2015～2024年の平均値

⑥ツマグロヨコバイ

8月上旬のすくい取り調査(本田ネット20回振)での捕獲頭数(成虫)は、中信地域では平年と比べ多く、東信地域では平年並、南信地域及び北信地域では平年と比べ少なかった。

8月下旬のすくい取り調査(本田ネット20回振)での捕獲頭数(成虫)は、東信地域ではほぼ平年並、中信地域で平年と比べやや少なく、南信地域及び北信地域は平年と比べ少なかった。

⑦セジロウンカ

8月下旬のすくい取り調査(本田ネット20回振)での捕獲頭数は、成虫及び幼虫のいずれも平年と比べ少なかった(第5表)。

第5表 8月下旬のセジロウンカの平均捕獲頭数(頭)

地域	調査 地点数	成虫(短翅含む)		幼虫	
		平年	本年	平年	本年
東信	15	4.9	1.3	2.2	0.1
南信	15	6.6	2.1	5.8	0.1
中信	18	7.0	0.3	4.8	0.0
北信	14	9.7	3.5	3.2	0.8
県全体	62	7.2	1.7	4.3	0.2

(注) 平均捕獲数は巡回調査地点の捕獲数を地域ごとに平均したもの

平年は2015～2024年の平均値

⑧トビイロウンカ

上田市、飯田市、伊那市、南木曽町、安曇野市、須坂市に設置した予察灯では、誘殺されなかった（8月31日現在）。

8月上旬と下旬の巡回調査ほのすくい取り調査（本田ネット20回振）では、捕獲されなかった。

⑨イナゴ

8月下旬のすくい取り調査（本田ネット20回振）での捕獲頭数は、東信地域及び北信地域ではほぼ平年並、南信地域及び中信地域では平年と比べ少なかった。

⑩斑点米カメムシ類

8月上旬のすくい取り調査（本田ネット20回振）での捕獲頭数は、全般的に平年と比べ多かった。

8月下旬のすくい取り調査（本田ネット20回振）での捕獲頭数は、東信地域及び中信地域では平年と比べ多く、南信地域及び北信地域ではほぼ平年並であった（第6表）。

第6表 斑点米カメムシ類平均捕獲数（頭）

地域	8月上旬		8月下旬	
	平年	本年	平年	本年
東信	0.4	1.0	0.5	1.2
南信	1.2	3.1	9.1	8.9
中信	2.8	11.2	1.9	5.0
北信	0.3	1.3	0.9	1.1
県全体	1.3	4.6	3.3	3.9

（注）発生種（トゲシラホシカメムシ類、ホソハリカメムシ、アカヒメヘリカメムシ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、クモヘリカメムシ、アカスジカスミカメ）の平均捕獲数は巡回調査地点の地域ごとに平均したもの

平年は2015～2024年の平均値

⑪フタオビコヤガ（イネアオムシ）

8月上旬及び下旬の25株払落し調査では、捕獲頭数は平年並～やや少なかった。

果樹の生育概況

令和7年産の果樹生育概況は、果樹試験場ホームページの定例調査にある「令和7年の生態調査結果」および南信農業試験場ホームページの調査速報にある「令和7年果樹生態調査」を参照ください。

果樹試験場ホームページ

(<https://www.pref.nagano.lg.jp/kajushiken/chosa/teirei/index.html>)

南信農業試験場ホームページ

(<https://www.pref.nagano.lg.jp/nannoshiken/joho/sokuho/index.html>)

2 りんご

（1）病害虫の発生状況

①褐斑病

直近の巡回調査では、東信地域、中信地域、北信地域で発生がみられ、発生量は平年並であった。

②輪紋病

直近の巡回調査では、南信地域、北信地域の一部のほ場で発生がみられ、発生量は平年並であった。

③炭疽病

直近の巡回調査では、南信地域の一部の発生がみられ、発生量は平年並であった。

④キンモンホソガ

直近の巡回調査では、県下全域の所々で葉への寄生がみられた。北信地域の一部のほ場で被害葉率4.5%とやや高かったが、発生量は平年並であった。

須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年と比べ少なかった（第1表）。

第1表 キンモンホソガのフェロモントラップ誘殺消長（頭）

須坂市（果樹試験場）

区分	8月					
半月	1	2	3	4	5	6
平年	212.5	329.2	499.0	479.6	383.7	417.2
前年	104	221	209	165	125	68
本年	73	39	86	89	135	274

平年は2015年から2024年までの平均値

⑤シンクイムシ類

直近の巡回ほ場では、果実被害はみられなかった。
須坂市（果樹試験場）のモモシンクイガのフェロモントラップにおいて、第1世代成虫の誘殺ピークは平年より早かった（第2表）。
スモモヒメシンクイの第2～3世代の発生時期は平年並であった（第3表）。

第2表 モモシンクイガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）
須坂市（果樹試験場）

区分	8月					
半旬	1	2	3	4	5	6
平年	11.4	15.6	12.5	6.2	7.1	5.1
前年	9	4	0	0	2	3
本年	20	6	1	2	13	5

平年は2015年から2024年までの平均値

第3表 スモモヒメシンクイのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）
須坂市（果樹試験場）

区分	8月					
半旬	1	2	3	4	5	6
平年	10.7	6.3	5.3	7.6	11.2	16.5
前年	32	13	0	17	27	55
本年	12	9	2	1	7	27

平年は2015年から2024年までの平均値

⑥ハダニ類

直近の巡回調査では、県下全域多くの地点でリンゴハダニやナミハダニの寄生がみられ、8月上旬には一部のほ場は多発傾向であり、発生量は平年並～やや多かったが、8月下旬になるとやや落ちついた。

⑦リンゴコカクモンハマキ

直近の巡回調査では、新梢の被害はみられなかった。
須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップによる誘殺はなかった（第4表）。

第4表 リンゴコカクモンハマキのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）
須坂市（果樹試験場）

区分	8月					
半旬	1	2	3	4	5	6
平年	0	0	0	0.1	0	0.1
前年	0	0	0	0	0	0
本年	0	0	0	0	0	0

平年は2015年から2024年までの平均値

3 な し

（1）病害虫の発生状況

①うどんこ病

直近の巡回調査では、発生はみられなかった。

②黒星病

直近の巡回調査では、発生はみられなかった。

高森町（南信農業試験場）の調査では、殺菌剤無散布の果実の発病率は平年と比べ少なかった（第1表）。

第1表 果実の発病（％）
高森町（南信農業試験場）

区分	6月			7月			8月
	5日	15日	25日	5日	15日	25日	5日
平年	40.4	49.5	54.6	69.3	80.7	85.5	94.8
前年	1.2	1.2	21.7	22.1	59.7	81.3	93.0
本年	1.8	4.4	6.0	6.9	14.5	25.9	24.4

平年は2014年から2024年までの平均値

「幸水」の殺菌剤無散布樹で調査

③黒斑病

直近の巡回調査では、発生はみられなかった。

高森町（南信農業試験場）の調査では、アルタナリア属菌の孢子捕捉数は、平年と比べ少なかった（第2表）。

高森町（南信農業試験場）の調査では、殺菌剤無散布の果実の発病率は、平年と比べやや多かった。また、新梢葉の発病は平年と比べ多かった（第3、4表）。

第2表 アルタナリア属菌の捕捉胞子数（個） 高森町（南信農業試験場）

区分	8月			9月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
平年	24.3	20.6	15.5	8.8	7.8	4.1
前年	22	28	46	9	13	4
本年	9	5	7	16		

平年は2015年から2024年までの平均値、2023年から旬毎の調査に変更
表中の数字は18mm×18mm当たりの胞子数（個）

第3表 果実の発病（「二十世紀」殺菌剤無散布樹）（％）

高森町（南信農業試験場）

区分	7月			8月			9月
	5日	15日	25日	5日	15日	25日	5日
平年	43.6	75.0	86.9	90.1	90.3	100.0	—
前年	65.4	95.8	96.3	—	—	—	—
本年	55.6	96.5	97.4	98.1	—	—	—

平年は2015年から2024年までの平均値
黒斑病による落果が増加したため8月5日で調査終了した

第4表 新梢葉の発病（「二十世紀」殺菌剤無散布樹）（％）

高森町（南信農業試験場）

区分	7月			8月			9月
	5日	15日	25日	5日	15日	25日	5日
平年	30.9	41.7	52.3	55.5	56.2	64.0	65.5
前年	21.1	22.8	35.3	47.3	53.5	68.4	72.0
本年	32.0	44.5	50.2	61.9	68.2	71.6	

平年は2015年から2024年の平均値

④輪紋病

直近の巡回調査では、果実被害はみられなかった。

⑤枝幹性病害（胴枯病・枝枯病）

直近の巡回調査では、発病はみられなかった。

⑥カメムシ類

直近の巡回調査では発生はみられなかった。

高森町（南信農業試験場）のフェロモントラップでは、クサギカメムシの誘殺頭数は平年並であった。チャバネアオカメムシの誘殺頭数は、平年と比べ多かった（第5表）。

第5表 カメムシ類のフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

高森町（南信農業試験場）

区分	月 半旬	8月					
		1	2	3	4	5	6
クサギ カメムシ	平年	0.3	0	0.6	0.2	0.2	1.0
	前年	0	0	1	1	0	0
	本年	0	0	0	0	0	0
チャバ ネアオ カメムシ	平年	21.5	11.5	12.6	17.5	7.2	9.0
	前年	59	57	55	137	39	54
	本年	43	8	25	20	23	13

平年は2015年から2024年までの平均値

⑦ナシヒメシンクイ

直近の巡回調査では、被害果はみられなかった。

高森町（南信農業試験場）でのフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年と比べ多かった（第6表）。

第6表 ナシヒメシンクイのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

高森町（南信農業試験場）

区分	8月					
	1	2	3	4	5	6
平年	4.3	4.2	4.9	7.5	10.5	16.6
前年	1.0	4.5	6.0	17.0	34.0	38.0
本年	6.5	6.5	7.0	13.0	18.0	32.0

平年は2015年から2024年までの平均値

⑧モモシンクイガ

直近の巡回調査では、被害果はみられなかった。

高森町（南信農業試験場）のフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年並であった（第7表）。

第7表 モモシンクイガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）
高森町（南信農業試験場）

区分	8月					
半旬	1	2	3	4	5	6
平年	0.4	0.6	0.6	0.4	0.3	1.1
前年	2	1	0	0	0	5.5
本年	1.5	0.5	0	0.5	2	1.0

平年は2015年から2024年までの平均値

- ⑨ハダニ類
直近の巡回調査では、南信地域でナミハダニの発生がみられ、発生量は平年と比べ多かった。
- ⑩リンゴコカクモンハマキ
直近の巡回調査では、発生はみられなかった。
高森町(南信農業試験場)のフェロモントラップ調査では誘殺されなかった(第8表)。

第8表 リンゴコカクモンハマキのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）
高森町（南信農業試験場）

区分	8月					
半旬	1	2	3	4	5	6
平年	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1	0.5
前年	0	0	0	0	0	0
本年	0	0	0	0	0	0

平年は2015年から2024年までの平均値

- 4 **もも**
- (1) 病害虫の発生状況
- ①黒星病
直近の巡回調査では、発病はみられなかった。
- ②せん孔細菌病
直近の巡回調査では、発病はみられなかった。
- ③灰星病
直近の巡回調査では、東信地域のほ場で発病がみられたが、発生ほ場でも、樹による発生の偏りがみとめられた。
- ④シクイムシ類
直近の巡回ほ場では、被害果実はみられなかった。
長野市のモモシンクイガのフェロモントラップでの誘殺 はなかった(第1表)。

第1表 モモシンクイガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭） 長野市

区分	8月					
半旬	1	2	3	4	5	6
平年	—	—	—	—	—	—
前年	0	0	0	0	0	0
本年	0	0	0	0	0	0

調査ほ場を2024年に変更したため、平年値はない

- ⑤モモハモグリガ
巡回調査では、被害葉はみられなかった。
須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年と比べ少なかった（第2表）。

第2表 モモハモグリガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）
須坂市（果樹試験場）

区分	8月					
半旬	1	2	3	4	5	6
平年	201.3	89.4	62.5	34.9	44.4	61.1
前年	7	3	35	32	29	8
本年	1	1	1	1	1	1

平年は2015年から2024年までの平均値

5 **ぶどう**

(1) 病害虫の発生状況

①さび病

直近の巡回調査では、発生はみられなかった。

②べと病

直近の巡回調査では、中信地域、北信地域の一部のは場で発生がみられ、発生量は平年並であった。

③黒とう病

直近の巡回調査では、調査対象ほ場に発生はみられなかった。

④クビアカスカシバ

小布施町のフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年と比べやや多かった（第1表）。

第1表 クビアカスカシバのフェロモントラップによる誘殺消長（頭） 小布施町

区分	8月					
半旬	1	2	3	4	5	6
平年	1.7	1.5	0.7	0.2	0.2	0.3
前年	0	1	2	0	0	0
本年	3	3	0	0	0	0

平年は2015年から2024年までの平均値

⑤チャノキイロアザミウマ

直近の巡回調査では、被害葉はみられなかった。

6 **かき**

(1) 病害虫の発生状況

①炭疽病

直近の巡回調査では、発生はみられなかった。

②円星落葉病

直近の巡回調査では、発生はみられなかった。

③カキクダアザミウマ

直近の巡回調査では、発生はみられなかった。

④カキノヘタムシガ

直近の巡回調査では、発生はみられなかった。

⑤ハマキムシ類

直近の巡回調査では、発生はみられなかった。

⑥フジコナカイガラムシ

直近の巡回調査では、発生はみられなかった。

高森町（南信農業試験場）のフェロモントラップによる誘殺頭数は、8月第5旬までは平年と比べ少なかったが、8月第6旬では平年と比べ多かった（第2表）。

第2表 フジコナカイガラムシのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

高森町（南信農業試験場）

区分	8月					
半旬	1	2	3	4	5	6
平年	30.9	12.7	11.4	12.2	18.5	30.5
前年	57	5	4	17	52	67
本年	8	0	1	6	6	56

平年は2015年から2024年までの平均値

⑦ハマキムシ類

直近の巡回調査では、発生はみられなかった。

7 **野菜・花き**

(1) 病害虫の発生状況

①トマトの病害虫

直近の巡回調査では、東信地域の露地栽培で輪紋病の発生、CMV感染株の確認、オオタバコガによる被害、ハダニ類の寄生がみられた。

中信地域の露地栽培（ジュース用）では灰色かび病の発生とオオタバコガによる被害がみられた。

北信地域の施設栽培では葉かび病と輪紋病の発生、オンシツコナジラミの寄生がみられた。

②きゅうりの病害虫

直近の巡回調査では、中信地域の施設栽培でアザミウマ類の寄生がみられた。

北信地域の施設栽培では、うどんこ病の発生に加え、アザミウマ類、オンシツコナジラミ、ハダニ類の寄生がみられた。

また、北信地域の露地栽培では褐斑病およびべと病の発生、アザミウマ類の寄生がみられた。

③いちごの病害虫

直近の巡回調査では、アザミウマ類の寄生がみられた。

④キャベツの病害虫

直近の巡回調査では、東信地域でコナガやウワバ類などチョウ目害虫による被害、一部のほ場では株腐病や黒腐病の発生、アザミウマ類の寄生もみられた。

南信地域でもコナガやウワバ類による被害がみられた。

中信地域では一部のほ場で軟腐病が発生し、ウワバ類による被害もみられた。

北信地域では株腐病、黒腐病、黒斑細菌病の発生に加え、ウワバ類による被害がみられた。

⑤ブロッコリーの病害虫

直近の巡回調査では、東信地域の一部のほ場で黒斑細菌病の発生、コナガ、ウワバ類等チョウ目害虫の被害がみられた。

⑥はくさいの病害虫

直近の巡回調査では、東信地域の一部のほ場でピシウム腐敗病、べと病の発生、チョウ目害虫の被害がみられた。

⑦レタスの病害虫

直近の巡回調査では、東信地域ですそ枯病、斑点細菌病、一部のほ場で軟腐病、べと病の発生がみられた。

⑧セルリーの病害虫

直近の巡回調査では、病害虫の発生はみられなかった。

⑨アスパラガスの病害虫

直近の巡回調査では、全調査ほ場で茎枯病が発生し、アザミウマ類の寄生もみられた。

また、南信地域の雨よけ栽培ほ場、および北信地域の雨よけ栽培・露地栽培ほ場でハダニ類の寄生がみられた。

⑩ねぎの病害虫

直近の巡回調査では、全調査ほ場（南信地域、中信地域）で黒斑病の発生、アザミウマ類、ネギハモグリバエの被害、ネギコガの寄生がみられた。

また、南信地域ではさび病の発生もみられた。

⑪ながいものアブラムシ類

直近の巡回調査では、アブラムシ類の寄生はみられなかった。

⑫きくの病害虫

直近の巡回調査では、東信地域でアザミウマ類による花の被害がみられた。

⑬コナガ（アブラナ科野菜）

フェロモントラップによる誘殺頭数は、塩尻市、小諸市、長野市、原村では、平年と比べ少なかった。

上田市では、全般的に平年と比べやや少なかった。

朝日村では、第1～第4半旬は平年並か平年と比べやや少なかったが、第5～第6半旬は平年と比べやや多かった（第1表）。

第1表 コナガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分 半旬	8月					
			1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 （野菜花き試験場）	キャベツ・ はくさい	平年	18.9	17.0	14.6	15.1	16.2	13.1
		本年	3	1	1	1	0	1
小諸市山浦 （野菜花き試験場 佐久支場）	レタス	平年	14.8	14.8	13.7	10.6	11.3	13.3
		本年	4	2	2	0	1	1
上田市菅平 （地区発生予察ほ）	はくさい	平年	7.9	5.0	5.8	6.4	7.1	4.9
		本年	2	8	3	3	2	1
原村判之木 （防除適期決定ほ）	ブロッコリー	平年	46.3	43.2	50.1	43.4	26.0	35.4
		本年	23	16	10	4	8	9
朝日村古見 （地区発生予察ほ）	はくさい	平年	12.4	30.4	25.9	18.7	23.6	35.7
		本年	11	12	13	12	33	39
長野市上ヶ屋 （地区発生予察ほ）	キャベツ	平年	18.9	25.1	21.6	27.5	32.5	44.7
		本年	2	3	1	5	1	20

平年は2015年から2024年までの平均値、朝日村は2019年から2024年までの平均値

⑭オオタバコガ

フェロモントラップによる誘殺頭数は、塩尻市では第1～第3半旬は平年並かやや多く、第4半旬以降は平年と比べ少なかった。

小諸市では第3半旬は平年と比べやや少なかったが、それ以外の期間は平年並か多かった。

須坂市では第1～第4半旬は平年と比べ多く、第5～第6半旬は平年並であった（第2表）。

第2表 オオタバコガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	8月					
		半旬	1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 （野菜花き試験場）	キャベツ・ はくさい	平年	37.2	41.4	47.2	54.2	52.3	44.1
		本年	29	66	42	15	26	30
小諸市山浦 （野菜花き試験場 佐久支場）	レタス	平年	21.7	35.3	38.5	36.9	42.9	49.7
		本年	33	30	29	48	79	94
須坂市小河原 （農業試験場）	さつまいも ・水稻	平年	9.9	18.8	23.7	37.7	33.4	22.4
		本年	29	63	95	54	32	18

平年は2015年から2024年までの平均値

⑮ヨトウガ類

ヨトウガのフェロモントラップによる誘殺頭数は、塩尻市では第1～第2半旬は平年並か平年と比べやや少なく、第3半旬以降は平年と比べ多かった。

須坂市では、ほぼ平年並であった（第3表）。

ハスモンヨトウのフェロモントラップへの誘殺頭数は、塩尻市では、全般的に平年と比べ多く、特に第5、第6半旬では、平年値の2倍であった。

須坂市では、全般的に平年と比べ多く、特に第2半旬では平年値の約3倍であった。

上田市では、全般的に多く、第5半旬から急増し、平年値の8～9倍であった（第4表）。

シロイチモジヨトウのフェロモントラップによる誘殺頭数は、塩尻市では、全般に平年と比べ多く、8月の総誘殺頭数は平年値の約3倍であった。

長野市では、第1～第3半旬はほぼ平年並であったが第4～第6半旬はやや多かった（第5表）。

第3表 ヨトウガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	8月					
		半旬	1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 （野菜花き試験場）	キャベツ・ はくさい	平年	25.0	16.6	15.1	18.6	16.3	19.4
		本年	18	19	29	32	47	40
須坂市小河原 （農業試験場）	さつまいも ・水稻	平年	0.2	0.8	1.2	1.8	2.8	4.5
		本年	0	0	0	1	3	7

平年は2015年から2024年までの平均値

第4表 ハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	8月					
		半旬	1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 （野菜花き試験場）	キャベツ・ はくさい	平年	39.3	37.2	47.4	55.4	56.8	57.0
		本年	56	61	68	86	104	89
須坂市小河原 （農業試験場）	さつまいも ・水稻	平年	18.9	35.3	39.6	43.0	36.2	68.0
		本年	28	118	97	72	47	126
上田市菅平 （地区発生予察ほ）	はくさい	平年	5.9	6.6	7.1	7.2	7.9	9.5
		本年	11	13	10	17	64	86

平年は2015年から2024年までの平均値、須坂は2024年を除く10年の平均値

第5表 シロイチモジヨトウのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	8月					
		半旬	1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 （野菜花き試験場）	キャベツ・ はくさい	平年	11.3	13.2	15.6	18.1	13.9	27.4
		本年	47	50	44	58	50	31
長野市上ヶ屋 （地区発生予察ほ）	キャベツ	平年	1.1	1.3	1.6	2.9	2.6	1.1
		本年	1	0	1	7	5	5

平年は2015年から2024年までの平均値、長野市は2018年から2024年までの平均値

⑯ハモグリバエ類（野菜・花き全般）

直近の巡回調査では、東信地域のきく（露地栽培）、南信地域及び中信地域のねぎで寄生がみられた。

⑰アブラムシ類（野菜・花き全般）

黄色粘着トラップによるアブラムシ類有翅虫の誘殺頭数は、塩尻市宗賀では、第2半旬を除き、平年と比べ多かった。

小諸市では、8月に発生の山がみられ、全般的に平年と比べ誘殺頭数が多かった。

上田市では、ほぼ平年並の誘殺頭数であった。

富士見町では、第3半旬から誘殺頭数が増加し、発生の山がみられた。

塩尻市洗馬では、全般的に平年並～平年と比べやや少なかった。

長野市では、第3第～第6半旬に発生の山がみられ、全般的に平年と比べ誘殺頭数が多かった（第6表）。

第6表 アブラムシ類有翅虫の黄色粘着トラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	8月					
		半旬	1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 (野菜花き試験場)	キャベツ・ はくさい	平年	6.1	6.5	6.4	10.4	17.6	22.0
		本年	30	0	24	35	20	30
小諸市山浦 (野菜花き試験場 佐久支場)	レタス	平年	8.5	7.6	8.0	13.6	15.0	31.6
		本年	23	25	96	143	67	71
上田市菅平 (地区発生予察ほ)	はくさい	平年	1.3	1.9	2.5	1.9	1.5	2.0
		本年	1	1	2	2	1	2
富士見町立沢 (地区発生予察ほ)	きく	平年	－	－	－	－	－	－
		本年	7	5	23	31	14	32
塩尻市洗馬 (地区発生予察ほ)	レタス	平年	14.0	9.8	15.1	26.5	30.3	58.8
		本年	4	5	16	23	15	39
長野市上ケ屋 (地区発生予察ほ)	キャベツ	平年	5.4	2.6	3.1	2.6	3.0	4.6
		本年	13	8	21	33	28	21

平年は塩尻市・小諸市は2017年から2024年までの平均値

上田市・長野市は2018年から2024年までの平均値

富士見町は調査地点変更により平年値無し

第7表 アザミウマ類の青色粘着トラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	8月					
		半旬	1	2	3	4	5	6
上田市菅平 (地区発生予察ほ)	はくさい	平年	10.0	7.7	11.6	10.6	18.3	26.7
		本年	40	13	20	1	3	1
富士見町立沢 (地区発生予察ほ)	きく	平年	－	－	－	－	－	－
		本年	48	43	62	84	43	108
塩尻市洗馬 (地区発生予察ほ)	レタス	平年	65.0	29.6	26.3	33.0	27.0	28.0
		本年	83	88	124	110	83	94
長野市上ケ屋 (地区発生予察ほ)	キャベツ	平年	38.9	48.9	86.3	54.3	68.6	78.9
		本年	32	9	22	23	28	22

平年は塩尻市では2017年から2024年までの平均値

上田市・長野市は2018年から2024年までの平均値

富士見町は調査地点変更により平年値無し

⑱アザミウマ類（ネギアザミウマ、ヒラズハサアザミウマ、ミカンキイロアザミウマなど）

青色粘着トラップによるアザミウマ類の誘殺頭数は、上田市では、第1～第3半旬は平年と比べ多かったが、第4～第6半旬は少なく、わずかな誘殺頭数であった。

富士見町では、平年との比較はできないものの、他の調査地点と比べて全般的に誘殺頭数が多かった。

塩尻市では、例年8月に誘殺頭数は減少するが、本年は減少せず、全般的に平年と比べ多かった。

長野市では、全般的に平年と比べ少なかった（第7表）。